



皆様のご支援で、
これだけ成果が
挙げられました。
ありがとうございます！
ございました！

これまでの課題

世界のトラの8割以上となる3000頭が生息するインド。トラが保護地域間を移動するためのコリドー上でのトラやその獲物となる動物の密猟・違法取引を防止すること、トラと地域住民との衝突を緩和することが差し迫った課題です。

©WTI

インドのトラ生息地
支援プロジェクト

成果
Achievement

01 ナウエガオン-ナグジラ・トラ保護区（マハラシュトラ州）で、野生生物犯罪防止のトレーニング・ワークショップを開催アチャナクマル・トラ保護区（チャティスガル州）で、野生生物犯罪防止のトレーニング・ワークショップを開催

3月1日～3日までの3日間、46名の森林局スタッフを対象に、野生動物犯罪防止/を実施、終了後にトレーニングキットと参加修了書を配布しました。参加者には研修前後で理解度テストを実施。75%以上の高得点者の割合が大幅に増加したことが注目でした。今後もこのような研究をもっと実施してほしいとの要望も多く聞かれました。



02 カーナ・トラ保護区で野生生物犯罪防止トレーニング・ワークショップの実施

6月29日から7月1日にかけて3日間の研修プログラムを実施しました。保護区長（保護区のコア エリアを統括）と副保護区長（バッファゾーンを統括）も参加。研修前の時点では理解度テストの平均正解率が54%だったのに対し、研修後には3分の1が75%以上、残る全員も70%を超えていました。プログラム終了後、副保護区長から、森林局スタッフのキャパシティ・ビルディングに大いに役立ったと述べる感謝状も届いています。



03 長期的なトラの生存が保障できるアチャナクマル・トラ保護区とカーナ・トラ保護区間の森林コリドー調査開始

中央インドの中でも特に重要とされる両保護区の間をトラが自由に移動できる環境を保全することで、長期的なトラの生存を保障することができます。そのためには、トラが分散・移動のために使っている森林コリドーを保全する根拠となるデータを整えることが求められます。まず、両保護区間のコリドーが細くくびれて、切れそうになっている場所（ボトルネック）周辺の村の関係者からの聞き取りを行いました。今後は、コリドーにおけるトラの出没度に関する科学的調査を行っていきます。



残された課題

- ・インドのトラの生息域のコアとなるトラ保護区。2010年の時点で38か所から58か所まで増えました。課題はそこで働く森林局スタッフが、密猟や違法取引の防止等のため、常に知識をアップデートし、技能を磨き続けること。また、様々な場所で起きているトラと地域住民との衝突を和らげるために住民に寄り添うことは、彼らがトラとの共存を受け入れるための第一歩。こうした活動は「継続」することが何よりも重要です。
- ・今年度からはじまったカーナとアチャナクマルの間のコリドー調査。数年越しの大きなプロジェクトです。完遂するまで是非支援を続けたいと思います。

引き続きのサポートをお願いします。



皆様のご支援で、これだけ成果が挙げられました。ありがとうございます！

インドのゾウ生息地支援プロジェクト

国内象牙市場閉鎖プロジェクト

これまでの課題

南インドのケララ州ワヤナード県で、ゾウと地域住民との衝突が激しさを増しています。対応に当たる森林局スタッフや地域住民からの緊急支援要請に依っていき必要があります。

これまでの課題

日本政府は、国際的潮流に反し、いまだ国内象牙市場閉鎖に向かおうとしません。東京都は、国に象牙取引の規制強化を求めつつ、東京の象牙組合の経営安定のために補助金を支給し続けています。

成果

ゾウと地域住民との衝突を未然に防ぐ「緊急対応チーム」へ装備を提供

ワヤナード・ノース森林区は、ケララ州の中でもっとも古い森林区の一つで、野生生物保全にも熱心。近年では人とゾウとの衝突が頻繁に起きているため、「緊急対応チーム」が編成され、森林内で起きる衝突に対処。今回は、ワヤナード・ノース森林区に属する7つのチームに対して、必要な装備を提供。

成果

01 ワシントン条約第78回常設委員会（ジュネーブ）にオブザーバー参加・意見表明

2月3日、ワシントン条約第78回常設委員会（スイス、ジュネーブ）に、オブザーバー参加。世界の12のNGOを代表して発言し、日本のオープンな国内象牙市場が違法な象牙の国際取引に「寄与している」ことは、条約事務局が今年公表したデータによって証明されたと強調。

02

国内象牙市場閉鎖を求める請願署名キャンペーンと国会への働きかけ

他の3団体と協力し、国内象牙市場閉鎖の実現を求める請願書を国会に提出するキャンペーンを実施。

国内象牙市場閉鎖に関する請願署名

アフリカのゾウを象牙密猟から守るために
象牙の需要は日本にいる私たちが減らすこと



2月22日には、Kick Off シンポジウムを開催（東京都港区）。三味線演奏家、箏の付属品の代替素材を製造・販売をされている方もお招きし、伝統的な象牙ユーザーの理解も得られる象牙市場閉鎖のあり方を議論。



キャンペーン Kick Off イベントのシンポジウム

キャンペーンの結果、合計5,745通の署名が集まり、2025年度通常国会の会期中に衆議院が受理。衆議院環境委員会、参議院予算委員会・決算委員会でも国内象牙市場閉鎖に関する質疑があり、国内象牙市場閉鎖に向けた世論の高まりを示すことに。

03

東京都が、JTEFの意見書に応え、象牙需要拡大・輸入再開のための補助金を停止

昨年JTEFとEIAが補助金見直しを求めて提出した意見書を受け、東京都は補助金交付要綱を改正、象牙の国際取引の再開や象牙製品の需要拡大を目的とした補助金を停止。

残された課題

ワシントン条約 CoP20（11月24日～）では、日本市場の閉鎖を求める議案が審議される予定。日本政府への働きかけをさらに強めることが必要。東京都が、縮小しつつも継続する象牙組合への支援には未だ問題が。さらなる改善が必要です。

残された課題

激しさを増す地域住民とゾウとの間のコンフリクト。ゾウが安全に移動するための森林コリドーを守り、共存を果たすためには、森林局と地域住民が協力し合う緊急対応チームが有効。各エリアに細かい単位でチームを立ち上げられるよう、支援強化が必要です。

引き続きのサポートをお願いします！



皆様のご支援で、
 これだけ成果が
 挙げられました。
 ありがとうございます！
 ございました！

©村田行

これまでの課題

イリオモテヤマネコの交通事故は2000年代に入ってから急激に増加。2018年には過去最悪の9件の事故が発生しました。近年は運転マナーが改善傾向にあり、2023年、2024年は2年連続無事故を達成しましたが、2025年8月2日に美原で952日ぶりとなる交通事故が発生してしまいました。特に北岸道路では車が近づいても逃げない「道路慣れ個体」の出没が相次いでおり、イリオモテヤマネコの交通事故発生リスクは高い状態が続いています。

成果
 Achievement

01 夜間パトロール活動の継続実施

2011年から実施している夜間パトロール活動は継続的に実施しています。2024年(2024年4月～2025年3月)は、ヤマネコの交通事故が多発する2つの区間(北岸道路、西部地区)で計137回実施しています。パトロールと併せて実施している交通調査の結果、北岸道路、西部地区の両区間で、平均速度が過去最低を記録しました。野生動物の飛び出しを意識した安全運転が当たり前の島になりつつあります。

02 ヤマネコ目撃多発地点での注意喚起活動

ヤマネコの交通事故で近年問題となっているのが、轢かれた小動物を食べるために繰り返し路上出没する「道路慣れ個体」の出現です。「道路慣れ個体」は追い返しても、繰り返し路上に出没するため、通常のパトロールでは対応しきれません。そこで、特定のヤマネコが何度も路上に出没していることが確認された場合、目撃多発地点でLED看板やのぼりを立てて、ドライバーに対して直接注意喚起を行っています。同時に実施した交通調査の結果、ドライバーの運転速度が夜間パトロールよりもさらに低速になることが分かっており、直接注意喚起が速度低下に効果的であることが分かっています。



野原崎付近で行った注意喚起活動(2025年10月10日)

03 ヤマネコ目撃多発地点での除草作業

道路わきに草や灌木類が繁茂すると、ドライバーが急なヤマネコの飛び出しに気づきにくくなります。また、ヤマネコにとっても身を隠せる場所があることで、道路での滞在時間が長くなる可能性があります。やまねこパトロールでは、イリオモテヤマネコの目撃が多発される地点を中心に草刈り作業を続けているほか、環境省、林野庁、西表石垣国立公園パークボランティアの皆さんと合同で草刈り作業も行っています。



環境省、林野庁、パークボランティア、やまねこパトロールで実施した草刈り作業(2025年4月16日)

04 ヤマネコのいる暮らし授業

2024年度は上原小、白浜小、西表小、大原小、大原中学校の5校で授業を実施しました。大原小、大原中学校の授業はCovid-19のパンデミック以来のもので、全島的なヤマネコ授業実施体制が復活しました。上記の5校では2025年度も授業開催を計画しており、白浜小学校での授業については、すでに始まっています(2025年10月10日現在)。一方、竹富町教育委員会と共催し、毎年実施している教員研修会については、台風接近による悪天候のため残念ながら中止となりました。



コロナ禍以来となった大原中学校でのヤマネコのいる暮らし授業(2024年12月9日)

05 「イリオモテヤマネコの日」(4月15日)イベント

2025年はイリオモテヤマネコ発見60周年ということで、やまねこパトロールと環境省西表野生生物保護センターが主催し、同センターとユグレナ石垣港離島ターミナルの2か所で写真展を行いました(4月15日～4月29日)。展示された写真は、島在住の写真家・村田行さんによるもので、既存作品に加え、新たに10枚のパネルを制作・公開しました。来場者には、イリオモテヤマネコ解説冊子「改訂版 ヤマネコのいる暮らし」も無料配布されました。写真パネルと冊子の制作は、JAC環境動物保護財団の助成によるものです。



石垣港離島ターミナルの展示の様子



無料配布された「ヤマネコのいる暮らし」

残された課題

- ・2年以上発生していなかったイリオモテヤマネコの交通事故が、8月2日に美原で発生しました。目撃が増えていた地域での事故で、「道路慣れ」の影響が懸念されています。
 - ・西表島で環境省と竹富町が進めるキャンプ・たき火ツアー解禁計画は、現行の観光管理方針に反し、火災による生態系への影響も懸念されています。
- やまねこパトロールは、引き続き計画の撤回を求めています。



2025年8月2日美原の交通事故現場(写真提供:環境省西表野生生物保護センター)

引き続きのサポートをお願いします!

2024年度にJTEFが行った支援

2025年10月21日時点。管理費を除く

・インドのトラ生息地支援	¥6,497,203
・インドのゾウ生息地支援	¥5,363,804
・イリオモテヤマネコ生息地支援	¥7,125,275
・政策提言事業(国内象牙市場閉鎖など) 教育普及事業	¥6,078,776

*JTEFは、個人サポーターの方々からのご寄付の他、チャリティー・イベントなどのご寄付、法人・団体からのご寄付、助成金で運営されています。
*最終的な決算(2024年11月1日～2025年10月31日)の内容は、2026年2月発行予定の「年次報告書」でご報告します。

イベント報告

2024.11/25

日本動物愛護協会主催すぎなみ地域大学「杉並どうぶつ相談員講座」戸川理事長が講演
8回連続講座のうち「野生動物について」を担当。

2025.1/8

online

JTEF 第9回オンライン・イベント「アフリカゾウを象牙目的の密猟から守るために～2025-2026は国内象牙市場閉鎖のラストチャンス～」日本の象牙取引問題に終止符を打つ機会となる今、私たちができることをお話ししました。参加人数28名

2/8

「第30回竹富町やまねこマラソン」に参加、ブースも出展。マラソン時は9度、体感温度は4度の寒波のなか、強風に煽られながら完走!やまねこグッズも好評。



3/3

ワークショップ「トラ博士になろう」上野動物園とコラボで、世界野生生物の日に、トラとその保全について子どもたちに深く学んでもらうイベントを開催。

3/8-9

横浜市野毛山動物園「動物たちのSOS展～守ろう生物多様性～」にブース出展。国内象牙市場閉鎖を求める請願キャンペーンを紹介。

4/19-20

アースデイ東京2025 代々木公園にブース出展
アフリカゾウの涙、野生生物保全論研究会と共に国内象牙市場閉鎖を求める請願署名への参加を呼びかけました。



5/2

かわさきFM自然環境教育番組「TO THE NATURE」でJTEFの活動をフィーチャー アースデーで行ったキャンペーンの様子が2週間に渡って、オンエア。

5/22

JTEF 親善大使で瀬木貴将さんによる募金活動



サンポーニャとケーナのソロライブコンサートで募金を集めてくださいました。@渋谷セルリアンホテル。

6/1

やまねこパトロールへの寄付商品: 「沖縄黒糖のブラウニャー」

全国販売(「ねこねこ」/オールハーツ・カンパニー)。猫専門イラストレーターCoony(クーニー)さんのご協力でご実現。



6/27

online

「国内象牙市場閉鎖請願署名キャンペーンのご報告と違法取引事件の解説」JTEFほか3団体で主催

7/16

虎ノ門100人カイギで戸川理事長がJTEFの活動を紹介 @港区虎ノ門

7/17 野生動物サポートグッズ結が、やまねこを支援するクラウドファンディング

ヤマネコ発見60年を記念した特別Tシャツを販売開始。



8/12

横浜市金沢動物園「エレファントナイト」にブース出展
世界ゾウの日記念イベント

8/14-15 多摩動物公園「ナイトゾウ」にブース出展 世界ゾウの日記念イベント



10/31 野生生物保全論研究会主催「象牙を使わない箸コンサート～箸曲の地平線を望む夕べ」を共催

8/16 「ゾウ大使になろう」

(1日目 @金沢動物園) 横浜市金沢動物園、よこはま動物園ズーラシアとコラボで実施する全2日の環境教育プログラム(対象:事前に応募した小学校4～6年生)。この日は金沢動物園のゾウ達を見てから、野生のゾウになってみるゲーム。年齢や性別によって行動が違うゾウたちの社会を楽しく学びました。



8/23 「ゾウ大使になろう」

(2日目 @よこはま動物園ズーラシア) ゾウなどを観察した後、またゾウになり切ってワナを切り抜いたり、線路をわたったりと、人間による脅威を体験。その後はゾウが来る村で暮らす人間になるロールプレイ。畑を荒らされて困っている人々や町からやってきた密猟者などになりきって、ゾウとの共存を考えました。終了後「ゾウ大使」に任命された子どもたちからのメッセージが、2つの園内で展示されます。(11月初旬の予定)。

9/27-28 ナマステインディア(代々木公園)にブース出展

10/12 イリオモテヤマネコ発見60年を記念して、やまねこ現地マネージャーの村田行さんが講演 @環境省 西表野生生物保護センター



10/18-19 井の頭自然文化園「ヤマネコ祭」で、西表島の生きものたちとやまねこパトロールの活動紹介を行うプレゼン。ブース展示、紙芝居も。



- 相澤登喜恵さん(動物肖像画家)
- 新井晴みさん(俳優)
- 池田卓さん(シンガーソングライター)
- 井上奈奈さん(現代アーティスト)
- 岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)
- 牛越峰峻さん(JPSA・一般社団法人日本プロサーフィン連盟名誉顧問)
- 大森享さん(元北海道教育大学教授)
- 岡田彰布さん(阪神球団オーナー付顧問)
- 小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)
- 加藤登紀子さん(シンガーソングライター)
- 蟹江杏さん(版画家)
- 見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)
- 巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)
- 小林裕児さん(画家)
- 権藤真禎さん(元社団法人兵庫県自然保護協会理事長、元神戸市立王子動物園園長)
- 坂本美雨さん(ミュージシャン)
- 沢田研二さん(歌手)
- 瀬木貴将さん(ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
- 田中豊美さん(動物画家)
- 田中裕子さん(俳優)
- 田畑直樹さん(公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
- 土居利光さん(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
- 並木美砂子さん(帝京科学大学特任教授)
- 根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)
- 南ぬ風人まーちゃんうーぼーさん(三線アーティスト)
- 羽山伸一さん(日本獣医生命科学大学教授)
- 訃報 2025年7月1日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げ、今までのご厚情に心より感謝申し上げます。
- ヒサクニヒコさん(漫画家)
- 福井崇人さん(アートディレクター)
- 福田豊さん(恩賜上野動物園園長)
- 藤木勇人(志いさー)さん(断家)
- 古沢広祐さん(國學院大学客員教授、「環境・持続社会」研究センター(JACSES)代表理事)
- 前川真行さん(動物写真家)
- 松田陽子さん(シンガーソングライター、国連UNHCR協会広報委員)
- 水野雅弘さん(株式会社TREE 代表取締役、SDGs.TV 総合プロデューサー)
- 三石初雄さん(東京学芸大学名誉教授)
- 宮下実さん(ときわ動物園名誉園長、元近畿大学教授、大阪市天王寺動物園名誉園長)
- 村田浩一さん(公益社団法人日本動物園水族館協会会長、日本大学生物資源科学部特任教授)
- 森川純さん(酪農学園大学名誉教授)
- 山極壽一さん(総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長、京都大学名誉教授/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
- 山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長) 五十首順

JTEFへのサポートのご継続をお願いします!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトから、クレジットカードで簡単にご寄附いただけます。郵便振替でもご寄附いただけます。



www.jtef.jp または「トラゾウ」 検索

ゆうちょ銀行
口座番号: 00170-7-355897
加入者名: トラ・ゾウ保護基金



認定NPO法人 http://www.jtef.jp/
トラ・ゾウ保護基金

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-18-12 ステディオオ虎ノ門1111号室
Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp https://www.jtef.jp/
郵便振替口座: ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

保護基金通信 期末特別号
トラ保護基金 vol.46
ゾウ保護基金 vol.43
イリオモテヤマネコ保護基金 vol.32
2025年10月31日発行
発行人・編集: 戸川久美